



(シンボルマーク)



(校章)

迫桜同窓会報

編集・発行 迫桜高等学校同窓会広報部会 発行日 令和4年7月12日
〒989-5502 宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184 TEL0228-35-1818
迫桜高校ホームページアドレス <https://hakuou.myswan.ed.jp/>

ぜひアクセスを!!

待ち遠しい平穏な日々

宮城県迫桜高等学校同窓会

会長 菅原 惠一
(栗原 昭和三十七年生)



日に日に木々の緑が深まり初夏を思わせる暖かい日が続いています。ですが、会員各位にはいかがお過ごしでしょうか。

穏やかな日が続く五月の第二日曜日、栗駒の山開きが行われるということ、高校時代の友人と岩鏡平で待ち合わせ久しぶりの山登りに挑戦しました。平地の静かさと違って登山口は冷たい西風が肌突き刺さるようでした。二人とも久しぶりとあってためらいもありましたが、「行けるところまで行こう」セーターを着こみ、例年より雪も多いということアイゼンを着け出発です。

岩鏡平周辺はスキーも可能なほどの残雪です。ザクツ、ザクツと二人の足音だけが周囲に響きます。一〇分ほどで雪渓を抜け休憩、体も温まり天候も回復に向かっているようです。

休憩中の話題は高校時代の恩師との思い出、現役時代の酒席のこと(二人とも左党)など話題は尽きません。中腹の登山道には手の届くところに濃いピンクの可憐な這い山桜などを見つけたところには天候もすっかり回復、頂上直下の大雪渓を昇る登山者もはつきりと確認できるほどです。急な木階段を上り頂上には正午に到着、山頂は快晴微風三六〇度の眺望は

これまで味わったことがない程素晴らしいものでした。

往復五時間ののんびり行程でしたが、帰り道「元気で来年も登ろう」と約束をして家路につきました。人生の終点に近い二人にとって改めて健康のありがたさを感じると同時にとても意義深い養老登山となりました。

コロナも沈静化して今年こそ穏やかな春を迎えられると思っていた矢先ウクライナ侵攻、まるで八〇年も前の戦時下にタイムスリップしたような信じがたいロシアの蛮行でした。東西冷戦時のような世界騒動となっています。エネルギー・食料生産地をめぐる戦争で食品や燃料類は急激な値上がりをしており、何とか早く停戦に持ち込む名案はないものでしょうか。世界の領袖・指導者層の英断に期待するものです。

さて、コロナ禍で本会総会が二年間開けずに専決処分と役員会承認ですませてきましたが、過般の役員会で今年は例年どおり八月六日の第一土曜に開催することに決定し、各分会において広報・議案等の調製作業を進めています。

久しぶりの同窓会です。より多くの方々のご出席のもとにぎやかな総会にしたいものです。

終わりになりましたが、会員各位のご健勝を祈念しご挨拶いたします。



学校の状況について

宮城県迫桜高等学校

校長 今野 一幸



同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に對しまして、温かいご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年十月行われました、本校創立二十周年記念式典に關しましては、菅原恵一同窓会長さんを実行委員長として、記念式典等無事に終了することができました。また、多くの同窓会の皆様方にご支援いただきまして、この場をお借りいたしまして重ねて御礼申し上げます。

今年度は、百五十八名の新入生をお迎えることができ、全校生徒四百三十三名での令和四年度がスタートしました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、感染対策しながらの学校生活となり、少なからずその影響はありますが、通常通りの授業を行っております。また、本校にとつて行事や体験学習は、生徒の成長するために、欠かせないものとなっております。状況を踏まえての活動となりますが、生徒の更なる成長と個々の目標達成のため、今後も同窓会の皆様始め、保護者の方々や地域の方々にもご理解、ご協力をいただきながら教職員一同精一杯取り組んで参ります。ご協力お願いいたします。

令和4年度

同窓会総会

期日 8月6日(土) 14:00~ 受付13:30~

場所 はさま会館

栗原市若柳字川南南大通14の7

※懇親会は予定しておりますが、コロナの感染拡大の状況によっては内容が変更となる場合がございます。

会員回想・近況報告

選んだ道をどう生きるか

講師 岩淵 郁恵



（著高 平成十二年卒）
迫川に架かる第二大橋を渡り、川沿いの桜並木を自転車で三年間通ったのがもう二十数年前だとは時の流れは早いものです。当時の私はきつと、今私が地元の学校で働いているなんて思いもしないでしょう。縁がありこの四月から迫桜高校で勤務することになりました。エネルギーに溢れ、キラキラした迫桜生を見て、自分はどんな高校生だっただろうと思ひ返してみました。

若柳中学校から若柳高校へと地元の高校へ進学しましたが、当時、本当はもつと別の高校へ行きたかったというのが本音でした。これとって取り柄もなく、運動も苦手で、たまたま他の教科より英語が好きだったのでE.S.S部（英語部）に入りました。A.L.Tの先生と放課後話をしたり、英語で手紙を書いたり、同じクラスに留学生の女の子がいたり、今思うとこの頃から英語を身近に感じていたのかも知れません。そういえば、生徒会執行部にも入り、生徒総会で制服のことについて議論したり、文化祭の運営をした記憶もあります。なんだ、思った以上に私の高校生活は充実していたんだ……と

迫桜高校卒業生として

金野 翔太



（迫桜 平成二十九年卒）
私は平成二十九年三月に宮城県迫桜高等学校を卒業しました。高校卒業後は、地元の工場に勤めましたが辞め、どうしても諦めきれなかった栗原市職員を目指し勉強をしました。はれて、一年後に栗原市職員になる

ことができました。栗原市職員として、栗原市内に勤務し、窓口業務や電話対応様々な仕事をしています。さて、私が迫桜高等学校に入学した理由について少し話したいと思えます。小学一年生から続けているサッカーのクラブチームの先輩に誘われたのがきっかけです。迷わず、行くと決めたことを今でも覚えてます。そして、迫桜高等学校は総合学科であるため、自分の将来の夢に向けて各教科の選択ができる。また、



今改めて感じています。友人たちと過ごした日々は今でもよく覚えていきます。L.H.Rで春には迫川の河川敷でお花見をし、冬には白鳥を見に行ったりしました。今の高校生に必須のスマホなんかはなかったけれど、ファッション雑誌を持ち寄って流行りの話をしたり、好きな音楽の話をしたり、時代は違っても、今も昔も高校生には共通するところがたくさんあると感じています。そうであれば、私が昔から心に留めていることは今の迫桜生にも通じるところがあるかもしれません。

「今自分がいる場所は、誰かに決められてここにいるわけではない。最終判断をして決めたのは自分。だから自分の決断に責任を持つ。そして、その中で自分ができる精一杯のことをして、自分自身が最高に楽しめる生き方をする。」高校生の頃の

自分がどの程度そう思っていたかは定かではないけれど、これまでの様々な経験を通して私の生き方の土台となっています。何かを決めるときには誰かに相談し、頼ってもいいけれど、最後に決断するのはいつも自分です。その結果を誰かのせいにして嘆くことのない人生を送ってください。自分になんかものを嘆くのではなく、掴みにくい努力をしてみてください。そして自身としっかり向き合い、色々な視点で物事を見てみてください。きつと色んな見え方ができると思います。若年生だった私は都会に出るのが夢だったけれど、今私は地元に残って、ここ若柳で生きています。自分で決断した道で今を幸せに生きています。

ばつらいこともありますが、それを乗り越えることで今後の社会人生活で自分の強みとして頑張っていけると思います。

現在、私は栗原市職員になり三年目になります。日々の仕事をしていく中で毎日が勉強になることがいっぱいありますが、常に向上心を忘れず、仕事をしていきたいです。

最後に、迫桜高等学校及び同窓生の益々のご発展とご活躍を祈っております。



修学旅行



迫桜祭



運動会



入学式



校舎と桜並木



現役生の声

系列紹介 福祉教養系列

三の四 佐々木 心琴



私は今、福祉教養系列で福祉を勉強しています。私が福祉教養系列を選んだ理由は二つあります。

一つ目は曾祖母と祖母の存在です。私の曾祖母は半身麻痺で初めは家族介護をしていましたが、介護が大変になり施設に入所しました。お見舞いに行けば領いたり、手を動かして反応してくれました。祖母は、複数の持病があり障害者手帳を持っていて、車椅子での生活を送っていたので周囲の支えが必要でした。そんな曾祖母や祖母の介護には家族の協力が大切ですが、その家族を支えてくれているのが担当のケアマネジャーの方や介護福祉士の方々です。他にも介護用品のレンタル業者の方や、理学療法士の方、たくさんの方々に支えて頂きました。私はそのような人の役に立てるような仕事に就きたいと思うようになりました。

二つ目は中学生のときに行った職場体験です。私は介護施設に行きました。七夕の時期だったので利用者さんと七夕飾りを作りました。利用者さんとコミュニケーションをとるのが難しかったことが印象に残って

います。しかし、職員さんと利用者さんとのコミュニケーションを見てみると、とても楽しそうに会話をしていました。その姿を見て利用者さんを笑顔にできるような人になりたいと思うようになりました。



昨年、福祉教養系列では言語聴覚士の方や理学療法士の方などをお招きして、様々な分野の講義をして頂きました。そして、その講義から学んだことをもとに、コロナフレイル予防DVDを製作しました。このコロナフレイル予防DVDは、若柳の上町地区の高齢者の方々にアンケートにご協力をして頂き、フレイル(心身の老衰)にならず、健康で楽しい生活を送っていただけるように考えられたタオル体操とロコモ体操を収録したものです。そして協力して頂いた上町地区・新山地区の方々の家に届けるという活動をしました。コロナ禍で実習に行けていない私達にとって、世代の異なる方との交流は初めてだったので緊張しましたが、上町地区・新山地区の民生委員さんや先生の支えがあり、コロナフレイル予防プロジェクトは大成することができました。

現在私達は、来年の一月に

行われる介護福祉士国家試験合格に向けて勉強中です。入学してから今まで、福祉について丁寧に分かりやすくご指導して頂いている先生方にはとても感謝しています。今年度からは、校外実習も実施されるのでたくさんの方の力を吸収していきたいです。福祉系列の全員が合格できるように残り八ヶ月、みんなで励まし合い、それぞれの進路達成に向けて頑張っていきたいです。

生徒会長より 発展への道標

迫桜高校生徒会長

佐藤 真 依



宮城県迫桜高等学校 学校生徒会長の佐藤 真依と申します。

一昨年に創立二〇周年を迎え、迫桜高校が少しずつ発展しつつある現状です。私は、生徒会長として学校の発展への道標を作るのはもちろんのこと、生徒と教員または地域の方との架け橋となつた伝統をそのままではなく少し工夫しながら後輩へ伝承していくなどの活動を中心に行っております。また、迫桜高校は明るく素直な生徒が多く、生徒と教員の距離も近いため、とても居心地の良い学校であるように感じます。勉強の他に部活動も活発で、運動部、文化部ともに日々精進して

います。今の三年生は新型コロナウイルス感染症のため以前の高校生活を知りません。常に手洗いうがい、消毒、黙食、マスク生活で、行事もコロナ禍前のように開催できず、大規模に縮小された年もあり、我慢の多い三年間でした。

ただ、この三年は無駄ではなく、確実に力を付けてきていると感じています。この機会をこのままで終わらせず、更なる向上のお手伝いができればと考えております。

今年、若柳のドリームパルと新設された若柳公民館にて宮城県高等学校総合文化祭が開催されます。そこで迫桜高校が代表校として他校の生徒会と協力しながら運営を行っていく予定です。他にも、アグリビジネス系列による野菜の苗販売やシクラメン販売など地域の方が本校へ足を運んでいただける機会を多く作っていく予定です。楽しみにしていただければと思います。

迫桜高校は同窓会の方々のおかげで成り立っている部分も沢山あります。これから高い壁におつかることもあると思いますが、迫桜高校の伝統と一人一人の実力で乗り越え、県内でも数少ない総合学科として更なる発展へと繋いでいきたいと思います。創立二十二周年の迫桜高校もどうぞよろしくお願いたします。

